

2025年度 公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費 実績報告書

2026年 4月 10日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 文学部・教授

(氏名) 山口裕子

公立大学法人北九州市立大学特別研究推進費に係る研究実績について、次の通り報告します。

研究課題名	日本の外国人受け入れの変遷と課題：東南アジアの技能実習生、特定技能外国人のライフコースと送り出し国から見る「選択肢としての日本」		
交付額	504,100円		
共同研究者	所属・職名	氏名	役割分担等
	無し		

1. 研究の目的

本研究の目的は、日本の外国人受け入れの変遷と課題を、東南アジアの送り出し国の動向と、日本に在留する技能実習生、特定技能外国人および来日を目指す実習候補生のライフコースにおける選択肢に注目して考察し明らかにすることである。具体的には①インドネシア政府の移住労働者の送り出し動向、②元技能実習生が帰還後に地方社会で行う送り出し事業とそこでの事前研修に参加する実習候補生、③送り出された九州、中国、関西地方に在留する実習生への聞き取り調査をとおして、特に送り出し国と送り出された移民、受け入れ国の複数の視点から「選択肢としての日本」の現状と課題を考察した。

2. 研究の方法

本研究は、①文献研究と②インドネシアと日本における実地調査により実施した。①文献研究では日本の外国人受け入れ動向の変遷と課題を、欧米などの移民受け入れ国や、韓国の雇用許可制度などと比較しつつ捕捉した。さらに近年の移民研究の諸議論を渉猟し、分析視点の陶冶を図った。②実地調査では、現在日本で技能実習中のインドネシア人の若者、彼らの古郷のインドネシア地方社会の家族や地域社会、また彼らを送り出した、元技能実習生が運営する送り出し機関とそこで現在事前研修を受ける日本を目指す若者らへの聞き取りを行った。

3. 研究成果

文献研究からは、送り出し受け入れ国双方の政治、社会状況と移住政策の特性を捕捉することができた。特に日本の外国人受け入れについては、従来、制度の目的と実態（例えば技能実習制度では、

技術移転による国際貢献という目的に反した、低賃金単純労働力の供給源になっている実態)との齟齬や、職場での人権侵害や「奴隷労働」などの問題が指摘されることが多かった。他方で日本は外国人受け入れに関して制度的には欧米と比較しても受け入れ要件が比較的少なく、永住型の割合が高いといった点で国際的に見ても「リベラルで開放的な労働移民政策をとる国」という位置づけになる[是川 2025]という知見も得られた。これらの日本の移民政策の制度上の特徴を捕捉するとともに、現場レベルで現に生起している差別や人権侵害などの課題の双方に向き合う必要があることが改めて確認された。また、実際の考察においては、「任意(自主性)のコンテキスト」の考えなど、移民がライフコースにおいていかなる制約を受けまた反対に選択肢をもっているかに接近し分析するための視座を下記のように援用することができた。

実地調査からは、これらの理論的考察を踏まえつつ経済格差を背景とするマクロのプッシュ・プル要因、送り出し、受け入れ双方の制度的側面に加えて、地方社会の仲介業者の役割、地域社会や親族からの期待といった複数の「任意のコンテキスト」が人々の移動にもたらす動態を析出し考察した。特に、帰還した元実習生にとって受け皿となる産業に乏しいインドネシアの地方社会では、元実習生が送り出し機関を運営する事例が多々みられる。このいわば「二世送り出し機関」が、同様に親兄弟や近い親族に元実習生をもつ「二世候補生」に対して、自らがかつて経験した事前訓練を実施している。こうした中で地方の若者にとっては、日本への渡航は、国内の大都市圏への出稼ぎと同等かそれ以上に現実的な選択肢となっており、送り出す側出される側双方が「二世」という閉じた循環の中で、日本企業が求める従順で勤勉な技能実習生が持続的に生み出されていることが明らかになった。他方で、2027年に予定されている日本の技能実習制度廃止を受けて、インドネシアの送り出し機関はより高度人材の育成と送り出しにシフトチェンジしつつある様相も見て取れ、今後も経緯を注視したい。主要な成果の一部として、以下2点のファイルを添付する。

- ①Hiroko Yamaguchi 2025 Between Business and Intimacy: Mobilities and Challenges of Indonesian Migrant Workers to Japan. *Proceedings of the 9th International Conference on Strategic and Global Studies 2025(ICSGS 2025)*. *Atlantis Highlights in Social Sciences, Education and Humanities*. 43: 283-297.
- ②山口裕子「技能実習生」2026年 中西嘉宏・野中葉編『東南アジアを学ぶ人のために』世界思想社、pp.214-215(コラム8、分担執筆)。

参照文献

是川タ 2025 『ニッポンの移民：増え続ける外国人とどう向き合うか』ちくま新書。